

『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。
スパークスの日本株の情報発信レポート



第46号 (2010年9月24日)

「6年半ぶりの為替介入」

政府・日本銀行は9月15日、2004年3月以来約6年半ぶりに、外国為替市場で「円売りドル買い」の為替介入に踏み切りました。同日朝の東京外国為替市場の対ドル円相場は一時1ドル＝82円台まで上昇し15年4カ月ぶりの円高水準をつけていましたが、介入を受けて1ドル＝85円台に急落、介入直前にはザラ場で9,200円割れまで売り込まれていた日経平均株価も急反発して9,500円台を回復しました。

20年近く続くデフレ的な経済環境に加え、リーマンショック後の世界的な景気後退の余波に苦しむ日本経済にとって、金融緩和的な意味合いを持つ為替介入に対し、市場は概ね好意的な反応を示したように思われます。



出所: データストリーム (2010年8月2日～2010年9月17日)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『まいこばなし』

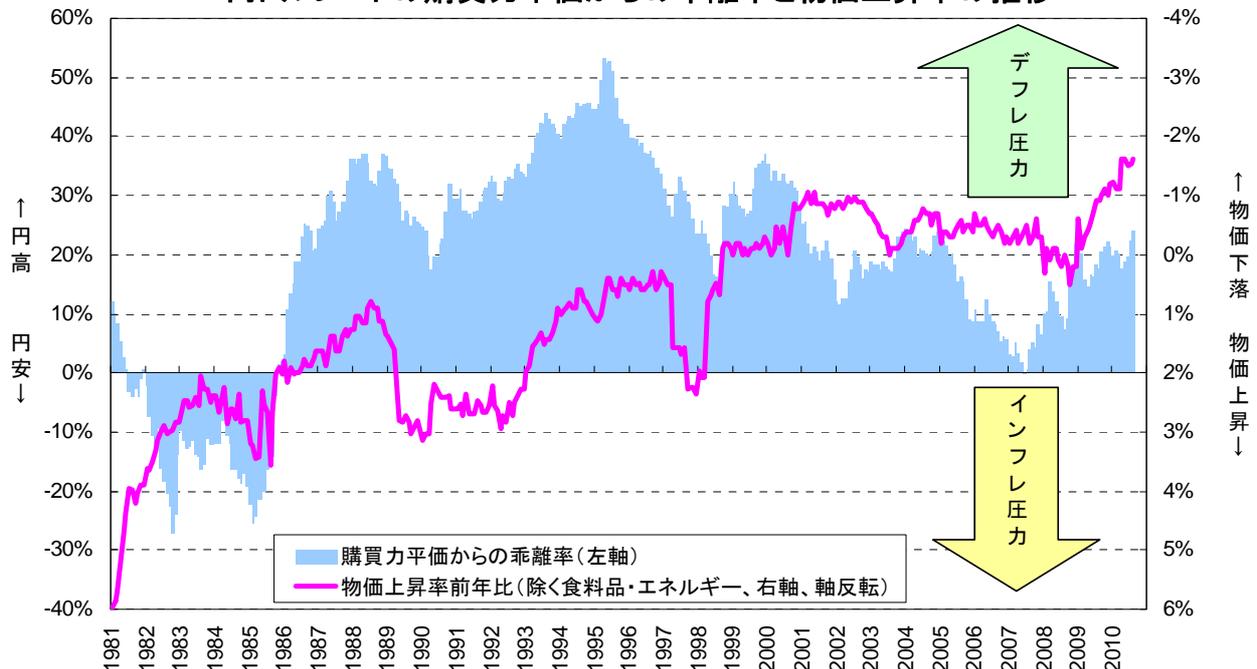
スパークスの日本株の情報発信レポート



経済にデフレ圧力をもたらす要因はいくつかあるのですが、経済のファンダメンタルズよりも割高な円高は、その大きな要因の一つになり得ると考えられます。現在の為替レートがどれだけ円高なのかを絶対水準として測るのはなかなか難しいのですが、一つの目安として、各国の物価水準の変化を考慮した購買力平価と呼ばれる数値と比較されることがよく行われます。そこでIMF(国際通貨基金)が算出している購買力平価と今の円ドルレートの乖離率と、物価上昇率(除く食料品・エネルギー)の推移をみることで、日本経済が経験してきたデフレ圧力を振り返ってみましょう。

1985年のプラザ合意以前は円安傾向でありインフレ傾向で経済が推移していたのですが、その後の急速な円高によって為替面からのデフレ圧力が強まっており、1998年から2005年までと、リーマンショック後から現在までの間は、マイナスの物価上昇率と円高という、厳しいデフレ圧力に経済がさらされていることがわかります。また為替と物価の双方でデフレ圧力が緩和されていたのは、為替介入とその後の量的金融緩和が効果を示していた2005年から2006年頃までだったことも確認できます。

円ドルレートの購買力平価からの乖離率と物価上昇率の推移



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



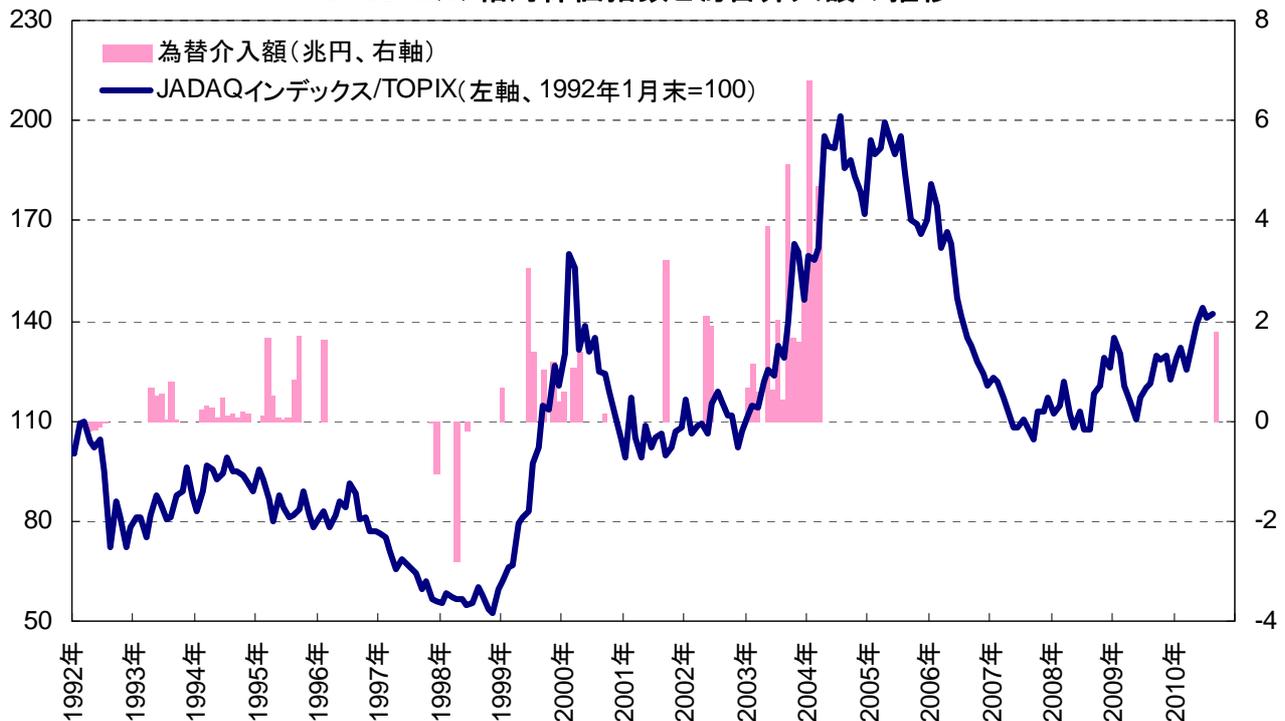
『まいこばなし』

スパークスの日本株の情報発信レポート



今後も円高によるデフレ圧力を緩和するための為替介入が継続的に実施され、それに合わせた日銀の金融緩和が行われれば、20年近く続くデフレに苦しむ日本経済にとってプラスの効果が期待できると思われます。下図は、為替介入額とJASDAQインデックスとTOPIXの相対株価の推移を示したのですが、為替介入が行われた時期においては、相対的にJASDAQインデックスのパフォーマンスが改善している傾向があるようです。これはデフレ圧力の緩和が日本企業の新たな成長を生み出すとの期待が反映されているのではないかと考えられます。日本政府と日銀が連携した、積極的な金融緩和政策を通じた、日本経済の早期のデフレからの脱却が望まれるところです。

JASDAQの相対株価指数と為替介入額の推移



出所: 財務省、データストリーム等よりSPARX作成

※上記はあくまでも当コラムの内容の理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。また当コラムは執筆者の見解が含まれている場合があり、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の見解と異なることがあります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。